

# みずべ 山口

令和8年3月 No. 43



山口県瀬戸内海環境保全協会

表紙の写真

周防大島町 日前

令和5年度「やまぐちプラスチックごみ削減フォトコンテスト2023」

環境保全活動部門 入選作品 撮影者 salserangie ※Instagram投稿者

## は じ め に

皆様には、平素から山口県瀬戸内海環境保全協会の活動に御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。本協会は、昭和56年2月に設立され、お陰をもちまして、45年が経過しました。

この間、当協会では、瀬戸内海の豊かな自然環境や住みよい生活環境を確保するため、環境保全に関する意識の啓発や生活排水浄化のための実践活動、環境学習の支援など、地域に根ざしたさまざまな取組を積極的に展開してまいりました。

このような努力もあり、瀬戸内海の水質環境については、一定の改善がみられたところですが、一方で、栄養塩類の不足等による水産資源への影響、藻場・干潟の減少、海洋ごみの漂流・漂着など解決しなければならない新たな課題も発生しています。

こうした中、山口県では、昨年2月に「瀬戸内海の環境保全に関する山口県計画」の変更が行われ、水質の環境保全はもとより、水産資源の持続的な確保、藻場・干潟をはじめとした沿岸域の環境の保全・再生・創出、海洋プラスチックごみを含む海洋ごみ対策などに取り組むとされています。

本協会としましても、こうした県の取組と歩調を合わせ、貴重な財産である「きれいで豊かな瀬戸内海」を後世に確実に残していくため、新たな課題を踏まえつつ、環境保全に関するさまざまな取組を一層推進していくこととさせていただきますので、引き続き、皆様方の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月

山口県瀬戸内海環境保全協会  
会長 森 友 信



## 目 次

- 株式会社日立製作所 笠戸事業所の環境保全への取り組み…………… 1  
株式会社日立製作所 笠戸事業所 車両生産部 生産管理部
- 三井化学株式会社 徳山分工場の環境保全への取り組み …………… 4  
三井化学株式会社 徳山分工場 安全・環境・品質グループ
- 地域と共に歩み、信頼される工場を目指して…………… 7  
テルモ山口株式会社 管理部 保全課
- 岩国市の水環境…………… 10  
岩国市環境部環境政策課
- 宇部市の水環境…………… 13  
宇部市市民環境部環境政策課
- 平生町の水環境…………… 16  
平生町環境政策室
- 山口デスティネーションキャンペーンの開催について …………… 19  
山口県観光スポーツ文化部観光プロモーション推進室
- 山口県における漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業の活動について …… 21  
山口県農林水産部水産振興課
- 生物多様性の保全に向けた山口県自然保護課の取組…………… 24  
山口県環境生活部自然保護課
- 令和7年度水環境中のPFOS・PFOA存在状況調査の結果について…………… 27  
山口県環境生活部環境政策課
- 令和7年度山口県瀬戸内海環境保全協会会長表彰受賞者 …………… 30
- 令和7年度山口県環境保全活動功労者等知事表彰受賞者 …………… 31
- 令和7年度「環境保全、リサイクル、省資源・省エネルギー」  
絵画・ポスター受賞者一覧、入賞作品 …………… 32
- 令和7年度環境保全標語入選作品、川柳入選句 …………… 35
- 環境学習教材利用案内 …………… 40



# 株式会社日立製作所 笠戸事業所の環境保全への取り組み

株式会社日立製作所 笠戸事業所  
車両生産本部 生産管理部

## 1. 会社概要

株式会社日立製作所の鉄道事業は、車両をはじめ電機品、信号・運行システム、営業システムまで手掛けており、鉄道システムにおける各種事業を有する国内はもとより世界的にも稀有な「トータル鉄道システムインテグレーター」として、技術・リソースの集結による世界の鉄道事業イノベーションを牽引すべく、事業活動に取り組んでおります。



写真1 日立の鉄道事業の拠点

その中で笠戸事業所(以下、当事業所)は、瀬戸内海に面した山口県下松市の位置し、高速鉄道から在来線まで、さまざまな鉄道車両の設計・製造を事業とし、2021年5月には創立100周年を迎えました。



写真2 笠戸事業所の全景

敷地面積520,000 m<sup>2</sup>の中に、構体組立、配線・配管作業、艀装作業、台車作業、品質保証の工程毎に配置されたレイアウトで、鉄道車両を製造しております。

## 2. 環境管理

### 2-1. 基本理念

当事業所は、地球環境保全が人類共通の最重要課題の一つであると認識し、調達からサービスまでの研究、開発、設計、製造、保守、販売における企業が関与可能な活動を通じて、環境負荷低減に取り組み、「持続可能な社会の構築貢献」を理念としています。

1997年12月にISO14001の認証を取得しました。さらに環境との調和を図りながら、「事業活動」＝「環境活動」の統合を行なうべく、環境適合製品の設計、地球温暖化防止、廃棄物削減、化学物質の適正管理・削減や、生態系保全(生物多様性)・気候変動・持続可能な開発目標(SDGs)を考慮した以下の環境方針を策定し、環境保全活動に取り組んでおります。

### 2-2. 環境方針

「サステナブルな社会の実現に向けて“もっとグリーン”な鉄道メーカーへ」をスローガンとし、経営戦略・事業計画を考慮し、鉄道関連の環境配慮製品を提供することで、当グループの環境ビジョン及び環境長期目標達成への貢献することを掲げています。

## 環境ビジョン

日立は、社会イノベーション事業を通じて、すべての人が地球環境を守りながら豊かな社会を実現できるように、グリーントランスフォーメーションのグローバルリーダーをめざします



脱炭素



サーキュラーエコノミー



ネイチャーポジティブ

## 環境長期目標

### 日立環境イノベーション2050

"GX for CORE" と "GX for GROWTH" の2つのミッションを追求し、データと革新的な技術を活用して、あるべき姿の実現・環境目標の達成に取り組みます

2050年度 ネットゼロ	2050年度 サーキュラー・トランスフォーメーション	2050年度 ネイチャーレジリエンス
高効率な製品、イノベーションサービス、および廃棄の技術でバリューチェーンを脱炭素化	ビジネスエコシステムを進化させ、モノやコトのライフサイクル全体における価値を最大化	社会インフラに対する責任あるパートナーとして、自然資本へのインパクトと自然災害の影響を最小限に抑え、生態系回復
2030年度 カーボンニュートラル <sup>1)</sup>	2030年度 埋立廃棄物ゼロ <sup>2)4)</sup>	2030年度 水使用10%削減 <sup>5)</sup>
2030年度 バリューチェーンを通じて温室効果ガス排出52%削減 <sup>2)</sup>	2030年度 すべての関連製品グループにエコデザイン <sup>6)</sup> を適用	2030年度 バリューチェーンを通じた自然との相互影響アセスメント <sup>7)</sup>

## 環境行動計画

環境目標を実現するために、3年ごとに環境活動項目と目標を設定

<sup>1)</sup> 2019年度を基準年とするファクトリー・オフィスにおける排出量削減とオフセットの活用、<sup>2)</sup> 2022年度を基準年とする売上総利益による原単位目標、<sup>3)</sup> 当該年度最終処分率(埋立て処分量/廃棄物有価物発生量)0.5%未満と定義し、規制や条件に適合している場合、<sup>4)</sup> 製造事業所が対象、<sup>5)</sup> 製品設計における環境配慮設計の適用、または製品群に対する環境影響評価の実施、<sup>6)</sup> 日立グループ内 2019年度比、活動量による原単位目標、<sup>7)</sup> 規制に対応したうえで、主要な製品・プロジェクトを対象

## 図1. 環境ビジョンと環境長期目標

出典元 [環境ビジョン: サステナビリティ: 日立](#)

さらにカーボンニュートラル推進に向け、「2030年度カーボンニュートラル(ファクトリー・オフィスにおけるCO<sub>2</sub>排出量削減とオフセットの活用)」、設計・調達から製品サービスおよび廃棄までの脱炭素、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブに向け、法令順守に基づき、環境経営・環境管理の向上をめざして、以下の活動を推進しています。

- (1) ISO14001 規格をもとに環境マネジメントシステムを構築し、当事業所で働く、または当事業所のために働くすべての人の参加のもとに環境汚染防止の推進・維持向上をめざします。
- (2) 事業活動、製品、サービスの環境側面に係る法的要求事項及び受入を決めたその他要求事項(利害関係者のニーズ及び期待)を遵守します。
- (3) 経営戦略、事業計画及び持続可能な社会構築に貢献するため、重点課題を設定し、活動を推進します。

## 3. 環境保全への取り組み

ISO14001 規格要求事項に基づき環境マニュアルを作成し、環境長期目標から環境行動計画を作成しています。PDCA サイクルを回し、継続的改善を図っております。

### 3-1. 法令順守

当事業所に関係した環境法令・条例等をまとめた「順守義務一覧」にて、外部・内部での環境監査での法令順守状況の確認、法令改正情報の入手、社内基準への反映などで管理をしています。

なかでも、環境負荷の高い「排水」「廃棄物」について、以下の取り組みを行なっています。

#### (1) 排水処理

特定施設からの排水は、排水処理装置による処理後、排水各項目を測定し、測定値に問題ないことを確認した上で瀬戸内海へ排水しています。各測定値の管理方法は、国が定める法規制値と比べてより厳しい下松市との公害防止協定値を用いて排水管理を実施しています。

#### (2) 廃棄物処理

排出事業者責任を果たすため、処理を委託している産業廃棄物処理委託業者(収集・運搬業者、処分業者)への現地確認を実施しており、処理状況の確認、契約書、電子 manifests の導入・運用・管理状況等を確認しています。

### 3-2. 脱炭素(ネットゼロ)

2-2. 環境方針にも掲げた「2030年度カーボンニュートラル」のもと、「省エネ」「再エネ」「創エネ」による、脱炭素に取り組んでいます。

- ① エネルギーマネジメントシステム導入
- ② やまぐち再エネ利用事業所認定取得

### ③太陽光発電設備導入検討

また、長期目標にバリューチェーン全体で「2050年度ネットゼロ」を掲げ、サプライヤーの皆様と協働し、取り組んでいます。



図2 2050年ネットゼロ

出典元 [環境ビジョン：サステナビリティ：日立](#)

### 3-3. サーキュラートランスフォーメーション

当事業所では、2002年度以降ゼロエミッション※1を継続しています。従業員による分別や委託先との連携により、排出されるすべての廃棄物を再資源化し有効に活用しております。

※1：日立では最終処分率1%以下、かつ最終処分量5t/年未満

直近では、サーキュラーエコノミー(資源循環)また有価物化することで、環境負荷削減・経営にも貢献することを強化しています。



図3 2050年度サーキュラートランスフォーメーション

出典元 [環境ビジョン：サステナビリティ：日立](#)

製品である鉄道車両において、エコデザイン※2のもとアセスメントを実施し、ライフサイクル全体で「グリーンな鉄道車両」の設計・製造に取り組んでいます。

※2：製品やサービスの設計・開発プロセスにおいて、環境側面を体系的に考慮し、ライフサイクル全体を通じて環境への悪影響を低減することを目的としてアプローチするもの

### 3-4. ネイチャーレジリエンス

生態系保全活動として、近隣企業と一緒に、年に1回「笠戸はなぐり浜清掃活動」を実施し、2023年には国土交通大臣表彰もいただきました。



写真3 笠戸はなぐり浜清掃活動



写真4 国土交通大臣 表彰

また、自然資本となる水の使用量削減も、グループ全体で取り組んでいます。



図4 2050年度ネイチャーレジリエンス

出典元 [環境ビジョン：サステナビリティ：日立](#)

### 4. おわりに

当事業所は、環境長期目標のもと、事業を通じて、すべての人が地球環境を守りながら豊かな社会を実現できるよう、貢献してまいります。

# 三井化学株式会社徳山分工場の環境保全への取り組み

三井化学株式会社徳山分工場 安全・環境・品質グループ

## 1. 企業理念

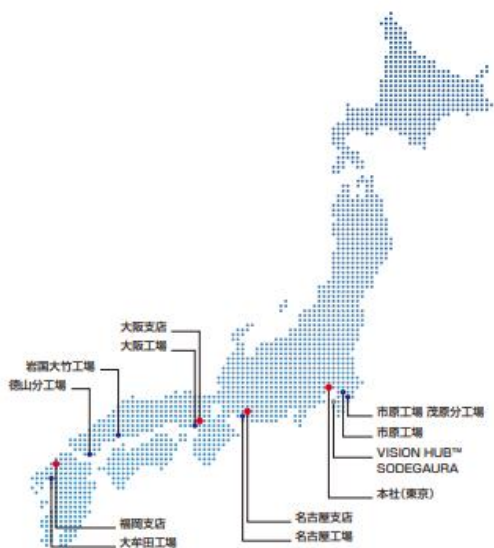
私たち三井化学は、加速する環境変化の中で生まれるさまざまな社会課題に対し、多様な価値を創造できる化学の力で解決策を持続的に提供していきます。

### 企業グループ理念

地球環境との調和の中で、材料・物質の革新と創出を通して高品質の製品とサービスを顧客に提供し、もって広く貢献する



国内拠点



## 2. 工場変遷と概要

徳山分工場は、1962年1月に武田薬品工業(株)徳山工場として操業を開始しました。その後、2001年に三井化学(株)と武田薬品工業(株)の合弁会社である「三井武田ケミカル(株)」を設立、以降、何度かの社名変更を経て、2022年1月より三井化学(株)徳山分工場となりました。

徳山分工場は、瀬戸内海に面した周南コンビナートの一角に位置しており、主原料をパイプラインで直接受け入れることができます。

周南コンビナート全景



徳山分工場全景



主として自動車シート・吸遮音材、家具・寝具、冷蔵庫断熱材、建材などに使われるポリウレタン原料の生産を行っています。

## 自動車シート材への使用



ヒマの実から得られるひまし油をベースとしたポリウレタン用ポリオール「エコニコール®」は、LCA (Life Cycle Assessment) に基づき石油由来のポリオールと比較すると、温室効果ガスである二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の排出量が半減<sup>\*</sup>されます。エコニコール®は各種特長をもつ銘柄をラインナップしており石油由来ポリオールの代替品として幅広く使用でき、汎用品から高いスペックが要求されるハイエンド製品まで採用実績があります。

※当社算出の参考データ (2023) による

## ヒマ種子



### 3. 環境安全衛生方針

徳山分工場では、三井化学のレスポンシブル・ケア基本方針に基づき、生活の質の向上と環境の保全に応える化学製品の製造に努めるとともに、地域および社会の持続的な発展に貢

献するため、以下の環境安全衛生方針に取り組んでいきます。

- ①「安全はすべてに優先する」を私たち全員が心に刻み、無事故・無災害の実現を徹底して追求します。
- ②工場内で働く全ての人々の心と身体の健康増進に積極的に取り組みます。
- ③法令、社則及び工場ルールを遵守し、地域社会に信頼される工場を目指します。
- ④事業活動において省資源化、省エネルギー、廃棄物の削減、GHG 排出削減に取り組み、環境負荷の低減を図ります。
- ⑤技術・製品の開発等の事業活動を通じて人々の生活の質の向上と環境の保全に貢献します。

### 4. 環境保全の取り組み

#### 1) 地域社会との対話

周南コンビナートの一員として、日化協主催の RC 地域対話や周南地区環境保全協議会主催の地域対話などを通じて、地域との円滑なコミュニケーションに努めています。

#### 地域対話



#### 2) 地域社会貢献活動

毎年6月の環境の日に併せて工場周辺道路等のクリーンアップ作戦を行っています。

## クリーンアップ作戦

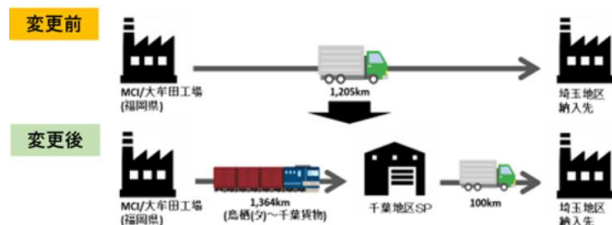


徳山・下松・光・新南陽港区クリーン作戦や町と森と水の交流会などにも積極的に参加し地域社会貢献活動を行っています。

### 3) GHG 排出量の削減

工場内で使用する電力の一部に再生可能エネルギーを使用し、環境への負荷削減に取り組んでいます。

徳山分工場からの出荷に関し「DX を活用した鉄道輸送によるモーダルシフトでCO<sub>2</sub>削減を実現」した事により、一般社団法人日本物流団体連合会主催の「第25回物流環境大賞」にて特別賞を頂きました。各輸送レーンをデジタル化によって可視化することで、長距離輸送モードをトラック輸送から鉄道輸送、海上輸送へ切り替えること（モーダルシフト）を検討、推進し、トラックドライバー不足解消にも貢献しています。



### 5. 保安防災の取り組み

工場構内では危険物等を多量に取り扱っており、万が一、火災や漏洩事故が発生した場合

に備えて防災訓練を実施しています。年1回、周南市消防本部と合同で、工場総合防災訓練を実施し、消火活動や関係官庁との連携などの訓練・確認をしております。

### 工場総合防災訓練



南海トラフなどの巨大地震に備え、安否確認訓練や津波避難訓練を実施しています。

### 6. おわりに

三井化学は、100年を超え、時代とともに変化し続けてきました。これからも未来を見つめ、地球環境との調和を図りながら、変革を生み出していきます。

## 0→1 MAKE IT HAPPEN

ゼロからイチを生み出す化学の力でイチからムゲンを実現し、未来へのソリューションを提供します。

# 地域と共に歩み、信頼される工場を目指して

テルモ山口(株) 管理部 保全課

## 1. 会社概要

テルモ山口株式会社は、テルモグループの国内約30年ぶりの新たな生産拠点として2011年に設立されました。カテーテル製品をはじめとする医療機器・医薬品の製造を担い、国内外の医療現場へ安全で高品質な製品を安定的に供給する役割を果たしています。西日本では初となるグループの生産拠点であり、事業継続の観点からも重要な戦略拠点として位置づけられています。

また、最新鋭の設備と培ってきた生産技術を活かし、国内外の工場と連携しながら、グループ全体の生産技術を支える「マザー工場」としての役割も担っています。医療を通じて社会に貢献するという理念のもと、品質・安全性の向上とともに、地域環境に配慮した事業活動を進め、持続可能な社会に貢献する工場づくりに取り組んでいます。



写真1) テルモ山口株式会社 外観



写真2) 工場で製造している主な製品

## 2. 環境方針と環境マネジメントシステム

### 1) グループ方針

テルモグループは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、事業活動のバリューチェーンにおける、気候変動問題への対応、資源循環社会の形成、生物多様性・生態系を含む自然保全等の地球環境問題に対して自主的・積極的に行動し、働く人々の安全・健康の確保に努めることで、持続可能な社会の実現に寄与するとともに、バリューチェーン全体への長期的なレジリエンスにつなげていきます。

### 2) EHS マネジメントシステム

テルモ山口は、2021年に国際認証規格であるISO14001(環境)およびISO45001(安全衛生)の認証を取得しました。事業活動に伴う環境負荷の低減と安全で健康的な職場環境の確保に向けて、組織全体で継続的な改善に取り組んでおります。また、環境分野においては、以下のとおり高い自主目標を掲げ、確実な達成に向けた活動を推進しています。

- ・カーボンニュートラルの実現(2040年まで)
- ・省エネの事業者クラス分け制度において、創業以来Sクラスを維持
- ・廃棄物のリサイクル率は、ほぼ100%を維持
- ・環境事故ゼロを継続中

今後も、再生可能エネルギーの導入拡大や廃棄物削減のためのプロセス改善など、具体的な施策を計画的に進めていきます。

## 3. 環境保全に向けた取り組み

### 1) エネルギー対策

エネルギー効率の向上と環境負荷低減を目

的に、太陽光発電の導入を進め再生可能エネルギーの活用を拡大しています。さらに、空調設備については可視化とスケジュール管理を行い、無駄な稼働を削減する仕組みを構築しました。

また、工場全体の照明LED化工事を実施することで、電力消費の削減と保守負担の軽減を実現しています。



写真3) 倉庫棟屋上 太陽光発電導入

## 2) 資源循環

工場内で発生する産業廃棄物は、約30種類に細かく分別しています。分別が難しい廃棄物については、品目ごとに処分許可を持つリサイクル対応の処分場へ搬出し、法令遵守のもとで安全に処理しています。

今後は、これまで実施してきたサーマルリサイクルからマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルへの切り替えを検討しています。

より高い再資源化率の実現と環境負荷低減を目的とし、最適なりサイクルプロセスの導入に向けて検証を進めます。

## 3) 工場排水

水質汚濁防止法および瀬戸内海環境保全特別措置法の規制基準を確実にクリアするべく、放流の水質を自動測定装置により24時間途切れることなく監視しています。

もし基準値を超えた場合には、放流ポンプが自動停止し、不適合な排水が外部へ流出し

ないように万全の安全構造を備えています。



写真4) 排水処理設備

## 4) 低炭素・循環型社会の実現

カーボンフリー電力を積極的に導入し、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減を推進しています。再生可能エネルギーの活用を拡大することで、環境負荷の低減とともに、脱炭素社会の実現に向けた企業として未来に誇れるクリーンなエネルギー体制の構築を進めます。



写真5) やまぐち再エネ電力利用事業所  
認定書

## 4. 地域貢献

### 1) 献血推進

テルモ山口では、2015年から継続して社内献血に取り組んでおり、その長年の活動が評価され、このたび献血運動推進者協力者表彰を受賞しました。本表彰は、献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる団体・個人に贈られるものです。

またテルモグループは2024年、日本赤十字社と「包括パートナーシップ協定」を締結し

- ・災害時の支援（防災・減災を含む）
- ・献血推進への協力
- ・地域医療・社会課題解決に向けた取り組みの3つを柱として、相互連携による社会貢献活動を進めています。こうしたグループの取り組みと連動し、テルモ山口においても定期的な社内献血を通じ、地域医療の支援に継続して取り組んでいます。



写真6) 献血活動と感謝状贈呈の様子

## 2) 清掃活動

毎年、工場周辺の清掃活動を通じて美しい街づくりに寄与するとともに、地域の皆さまとの連携を深め、環境保全に対する意識向上を図っています。これからも地域と共に、持続可能でクリーンな環境づくりに取り組んでまいります。



写真7) 佐山地区ごみゼロ大作戦

## 3) 校外研修

地域貢献活動の一環として、山口県消防学校の校外研修(予防査察科)を受け入れました。当日は県内消防局・消防本部の消防士・消防士長16名と教官2名が来場され、事業所の消防用設備や防災・防火管理体制を視察さ

れました。今回の研修は、消防関係者との連携強化に加え、当社関係者の防災意識を高める貴重な機会となりました。



写真8) 校外研修の様子

## 4) 出張授業

当日は、身近な場所から採取した菌の観察や、カテーテル挿入体験など、科学と医療を身近に感じられるプログラムを実施しました。生徒たちは培地に増えた菌の違いに驚きつつ、医療機器の仕組みに興味津々の様子でした。今回の取り組みは、子どもたちに科学の楽しさを伝えるとともに、地域とのつながりを深めることができ、今後も地域と連携し、学びの機会を創出してまいります。



写真9) 出張授業の様子

## 5. おわりに

テルモ山口株式会社は、瀬戸内海に隣接する地域で事業を行う企業として、自然環境の保全と地域社会との共生を大切にしています。これからも省エネルギー化や廃棄物削減、地域との協働活動など、環境負荷の低減に向けた取り組みを継続し、地域に信頼される工場として成長してまいります。持続可能な未来を次世代へつなぐため、社員一人ひとりが責任を持って環境保全に取り組んでいきます。

## 岩国市の水環境

岩国市環境部環境政策課

### 1. 岩国市の概要

現在の岩国市は、平成18年3月20日に旧岩国市、玖珂郡錦町、美川町、美和町、本郷村、周東町、玖珂町、由宇町の8市町村の合併によって誕生し、本年20周年を迎えました。

本市は山口県の東部端に位置しており、東は瀬戸内海安芸灘に臨み、西部は周南市、北西部は島根県、東部は広島県、和木町、南部は柳井市、田布施町、光市と接するとともに、大島瀬戸を挟んで周防大島町に隣接しています。

市の北部は寂地山や羅漢山などを有する山岳地帯となっており、中部には玖珂盆地を中心とした広大な田園風景を有し、南東部は温暖な気候の瀬戸内海に面しています。

沿岸部には製造業の工場を中心とした工業地域があり、瀬戸内海臨海工業地帯の一翼を担っています。一方で瀬戸内海国立公園や市北西部の西中国山地国立公園など自然豊かな地域、世界遺産登録を目指している錦帯橋などに象徴される歴史と観光の地域、米海兵隊岩国航空基地のある地域など多面的な顔を持っています。



春の錦帯橋と錦川

2号線・188号線をはじめ7本の国道、中国・山陽自動車道、山陽新幹線と山陽本線・岩徳線が市域を貫き、岩国港は重要港湾に指定されているほか、米海兵隊岩国航空基地の滑走路を共有する岩国錦帯橋空港を擁しており、山口県の東の玄関口となっています。

総面積は873.67km<sup>2</sup>であり、山口県全体の14.3%を占めています。令和7年4月1日時点での人口は123,483人で前年と比べて2,145人の減少、世帯数は64,365世帯で425世帯の減少となっています。

### 2. 水とのかかわり

錦川の上流部には「日本の滝百選」に選定された「寂地峡五龍の滝」などの溪流美が広がり、天然記念物に指定されたカジカガエルの生息地、世界遺産登録を目指す錦帯橋など、豊かな水環境を持っています。



寂地峡五龍の滝の一つ 龍尾の滝

市内では2か所（寂地川・桜井戸）が「名水百選」に選定され、地域の方々によって積極的な保全活動が進められています。また、平成23年の山口国体でカヌー競技が行われた中山湖や、キャンプ場などのある弥栄湖、さらには海浜部の「潮風公園みなとオアシスゆう」など、市民の水への親しみ・かかわりは深いものがあります。

### 3. 水環境の保全対策

岩国市の沿岸部には瀬戸内海臨海工業地帯の一翼を担う工業地域が、内陸部には周東テクノポートや瀬田工業団地をはじめとした工業団地が整備されています。市では、市民の健康の保護と生活環境の保全のため、環境悪化を防止する予防的見地に立って、公害関係法令を補完するものとして、22事業所と環境保全協定を、19事業所と覚書を締結するとともに、排水等の立入検査を実施し、環境保全に努めています。

また、住民への水環境保全意識の啓発事業として、種々の取組等を行っています。

#### 【水辺の教室】

河川や海等の身近な水環境に親しみながら、そこに生息する水生生物等の観察をすることで、自然をいたわる優しい心の醸成を図るため、水辺の教室を開催しています。



水辺の教室の様子

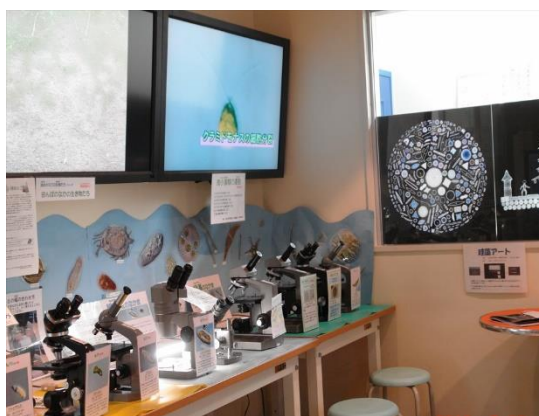
令和6年度は、計3回の教室を開催し、児童・生徒など59人の参加がありました。

#### 【岩国市マイクロ生物館】

岩国市由宇町の「潮風公園みなとオアシスゆう」の中に、目に見えないほど小さな世界の生き物であるマイクロ生物を紹介する世界初の博物館があります。

食物連鎖の底辺で多くの生命を支えているマイクロ生物がいなければ、豊かな自然環境も私たちの生活も成り立ちません。

マイクロ生物館では、そんなマイクロ生物たちの知られざる生態と役割を紹介しています。



マイクロ生物館の展示スペース

### 4. 公共用水域の水質状況

公共用水域の環境基準適合状況については、山口県及び中国地方整備局により継続的に実施されています。令和6年度の状況は次のとおりです。

#### ① 海域

CODについては、岩国港のB類型・C類型、広島湾西部の水域で、窒素・りんについては全ての水域で基準を達成しています。

#### ② 河川

BODについて、全ての河川・地点で環境基準を達成しています。（窒素・リンは基準設定なし）

③ 湖沼  
 CODは菅野湖・弥栄湖で基準を達成しています。りんについては弥栄湖で基準を

達成しています。なお、弥栄湖で基準が設定されている窒素は基準を達成していません。

環境基準達成状況経年変化

環境基準類型 あてはめ水域名	BOD、COD							窒素、りん						
	類型	地点数	達成状況(年度)					類型	地点数	達成状況(年度)				
			令和2	3	4	5	6			令和2	3	4	5	6
大竹・岩国地先海域	A	4	×	×	×	×	×	Ⅱ	2	○	○	○	○	○
岩国港(2)	B	3	○	○	×	○	○							
岩国港(1)	C	2	○	○	○	○	○							
広島湾西部	A	3	×	×	×	○	○	Ⅱ	4	○	○	○	○	○
小瀬川	AA	1	○	×	○	○	○							
	A	1	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	
	B	1	○	○	○	○	○							
錦川	AA	2	○	○	○	○	○							
	A	4	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	
	B	2	○	○	○	○	○							
由宇川	A	2	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	
島田川	A	3	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	
弥栄湖	A	1	○	○	○	○	○	Ⅱ	1	○	○	○	○	○
菅野湖	A	1	○	○	○	○	○	Ⅱ	1	×	×	×	×	×
山代湖	A	1	×	×	×	×	×	Ⅱ	1	○	○	×	×	×

## 宇部市の水環境

宇部市市民環境部環境政策課

### 1. 宇部市の水環境の概要

本市は、山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海に面した、面積 287.05 km<sup>2</sup>、人口約 15 万 5 千人の都市です。

気候は温暖で、雨が比較的少ない瀬戸内海式気候であり、市街地には厚東川や真締川が流れ、丘陵地には小野湖、常盤湖があり、貴重な水辺環境を有しています。

特に、市内南東部に位置する常盤湖は、1698 年（元禄 11 年）にかんがい用に造られたもので、2016 年（平成 28 年）の国際かんがい排水委員会（ICID）国際執行理事会において、世界かんがい施設遺産に登録されました。

常盤湖周辺では 100 種を超える多くの野鳥が観察され、市民が水鳥と親しむ場であるとともに、湖を中心に広がるときわ公園は緑と花と彫刻に彩られ、世界で最も歴史ある野外彫刻国際コンクール「UBE 現代日本彫刻展」の会場にもなっています。



世界かんがい施設遺産に登録された常盤湖

### 2. 河川・海域の状況

本市において代表的な河川の水系は、厚東川水系と真締川水系です。河川の代表的な汚

濁指標である BOD でみると、令和 5 年度は両水系の全ての測定点で環境基準を達成しています。厚東川水系では農業集落排水事業の実施や浄化槽の普及が、真締川水系では下水道の普及向上が水質維持の要因として挙げられます。

水系	測定点	水質 類型	BOD (mg/L) (75%値)
厚東川水系	厚東川吉野橋	A	0.8
	大田川宇内橋	A	0.8
	厚東川ダム下	A	1.5
	厚東川末信橋	A	1.4
	厚東川大橋	B	2.6
真締川水系	真締川新橋	A	1.2
	真締川錦橋	B	1.0
	塩田川琴芝橋	B	1.3

※ 環境基準値（BOD）A：2 B：3

その他、旧楠町地域の有帆川水系 3 地点と中小都市河川 12 本で市が独自に水質調査を実施しています。有帆川水系では環境基準を達成しており、中小都市河川では環境基準の指定対象外ですが、BOD は平均で 1.5 mg/L（令和 6 年度）と全てにおいて比較的良好な水質を保っています。

また、海域についても、令和 5 年度の COD 測定値では環境基準を超えている測定点はみられません。海岸や河川敷の清掃活動の実施

等、今後も水質を維持していくための取組を進めていきます。

測定点	水質類型	COD (mg/L) (75%値)
東港	C	2.0
宇部本港	C	2.1
工業運河	C	2.3
栄川	C	2.5
宇部本港出口	B	1.8
西沖、沖	B	1.6
本山岬南	A	1.6
本船航路中	A	1.8
亀浦沖	A	1.6

※ 環境基準値 (COD) A : 2 B : 3  
C : 8

### 3. 水環境保全の取組

#### (1) 市内企業との協定締結

令和7年12月現在、市内主要企業49社と水質汚濁の未然防止を盛り込んだ「環境保全協定」を締結し、そのうち13社の大規模工場とは「細目協定」により場外排水の「協定値」を定めています。

「協定値」は排水基準値よりも厳しい数値となっていますが、企業努力により遵守に取り組んでいただいています。

#### (2) 公共下水道の整備等

令和6年度末で下水道人口普及率は79.7%となりました。下水道事業開始後、汚水事業計画区域内の未普及解消を目指し、面整備を効率的・計画的に行っていましたが、老朽化した既

存施設の改築に多大な費用が必要となっており、地震対策を含めた改築更新事業に移行するため、下水道整備区域を見直しました。

また、市内の浄化槽設置数は約7,800基です。

#### (3) 親と子の水辺の教室

県と宇部自然保護協会に御協力をいただき、親と子が一緒になって水生生物等による水質判定を行うこと等を通じて、身近な水辺や地域資源に親しみ、水質保全や生物多様性保全意識の向上を図ることを目的とする「親と子の水辺の教室」を、毎年、厚東川上流の二俣瀬桜づつみ公園で開催しています。

毎回、多くの参加申込があり、捕獲した生き物が水質の指標となることが新鮮な体験となるようで、非常に好評を博し、地域の水質保全意識の醸成に大きく役立っています。



水辺の教室

#### (4) 環境教育プログラム

「宇部市環境教育・学習ビジョン」に基づく、持続可能な社会づくりの担い手となる人材育成の一環として、小中学生を対象とした様々な学習プログラムを実施しています。

水環境に関するものとしては、利用開始前の学校のプールから水生生物を保護する「ヤゴ救出作戦!」、海岸に打ち上げられたごみを回収しながらマイクロプラスチック汚染を学

習する「海のごみを調べよう」などを用意しており、体験を伴った学習により、水環境の保全への関心を強く喚起できています。



マイクロプラスチックを回収する様子

#### (5) 生物多様性地域連携保全活動計画

平成25年に策定した第1次計画では、小野湖を中心とした北部地域の里地里山の保全・再生を推進してきましたが、北部以外の地域にも貴重な自然環境は存在するため、令和5年に策定した第2次計画では対象区域を市全域に拡大しました。

市民一人一人が、身近な水環境の生物多様性に思いを寄せ、連携・協働して保全活動が実施される社会の実現を目指しています。



中川河口付近のヒヌマイトンボ

#### (6) 里山ビオトープ二俣瀬

市北部の中山間地域（標高20m程度）に位置する面積0.48ヘクタールの休耕田を活動して造成されたビオトープです。準用河川須賀河内川が隣接しており、ため池や湿地はこの川から取水しています。

小中学生等の環境教育や企業等の生物多様性保全活動の場、市民の憩いの場として活用しており、令和7年3月には県内で初めて環境省から「自然共生サイト」に認定されました。



自然共生サイト認定証の授与（現地にて）

#### 4. 結びに

今後も下水道整備などの事業計画を適正に推進するとともに、様々な施策を通じ、地域の水環境保全に努めていきます。

## 平生町の水環境

平生町環境政策室

### 1. 平生町の概要

#### 瀬戸内の陽光と「イタリアーノひらお」の風

本町は、山口県の東南部、室津半島の西に位置し、大星山（標高438m）、箕山（標高400m）を中心とした丘陵地帯と、平生平野を中心とした平野部から成っています。

西に田布施川を挟んで田布施町、北と東は田布路木、室津半島の稜線伝いに柳井市と接し、南は半島なかばで上関町と境を分けています。

室津半島の西に位置する熊毛群島のうち、佐合島が本町に属し、また18.2kmに及ぶ海岸線は波静かで陽光に恵まれており、瀬戸内海国立公園の一端を形成、豊かな自然環境を有しています。

気候は年間を通じて雨の少なく、温厚な「瀬戸内海式気候」に恵まれています。



「上空から見た平生町」

人口は令和7年12月末現在で10,547人、世帯数は5,369世帯。65歳以上が41.9%、14歳以下が8%と少子高齢化は進んでいますが、だからこそ「住みたい」と思える町を目指して、新しい価値づくりに挑戦しています。



「イタリアーノひらおシンボルマーク」

その象徴が、平成30年の「イタリアーノひらお宣言」。室津半島の形がイタリア半島に「…似てるかも?」から始まり、イタリアをテーマとしたまちづくりを推進しています。取り組みの一つであるオリーブ事業は令和2年2月から植樹し、令和7年12月ついに平生町観光協会によりオリーブオイル等の特産品が完成し、ひらお特産品センター等で販売を開始しました。

「なんだか楽しそう」というワクワク感を創出し、町全体を活性化させるための挑戦を続けていきます。



「阿多田オリーブパーク」

## 2. 平生町の水環境の状況

本町は今から約350年の昔、毛利藩の政策による大規模な開作によって町中心部が形成されています。堤防を築き、海水をせき止め、海面以下の140haにも及ぶ低い開作土地ができましたが、この開作の雨水排除の方法として、大内川、熊川、堀川を設け42の樋門をつくりました。熊川に当時最先端の技術で造られたのが土手町南蛮樋といわれるものです。この南蛮樋は、慶安4年(1652年)から万治元年(1658年)にかけて、大野毛利氏により行われた平生開作により造られたと推定されています。

南蛮樋は、ロクロ(南蛮と称する)を使用する点で唐樋とは構造が異なり、より精巧な装置です。南蛮樋の名称は、唐樋に対してオランダ技法による樋門の意味で用いられました。

1日2回の満潮時には必ず樋門を閉めなければならず、樋守の役割は、平生村の死活を制する大切な役割でした。大内川排水機場の完成により、この南蛮樋はその使命を終えましたが、300年余りの間、海拔0m地帯の住民の生産と生活を守る役目を果たしてきました。

土手町南蛮樋は平成2年11月6日に山口県有形民俗文化財に指定されました。その後、熊川河川改修工事のために撤去されましたが、南蛮樋の文化財としての価値を保存するため、平成27年12月に移築復元されました。



「移築復元された土手町南蛮樋」

下水道事業は、本町の豊かな自然環境を将来にわたって保全していくために不可欠なものです。

本町の公共下水道は、田布施川流域関連公共下水道事業として、平成2年度より隣接する田布施町と共に整備を開始し、平成8年度に本町中心部の一部で供用開始されました。令和6年度末現在の処理区域面積は、市街地を中心に約289ha、普及率は64.1%です。下水道普及率、水洗化率ともに徐々に上昇している状況ですが、近年は行政人口の減少に伴い、処理区域内人口及び水洗化人口は減少しています。

集落排水施設事業は、佐賀地区漁業集落環境整備事業として、平成9年度より事業をスタートし、平成16年度に一部供用開始、平成19年度で整備事業を完了しています。令和6年度末現在の処理区域内人口は、958人で処理区域内の水洗化率は約77.4%です。

公共下水道の認可区域外及び、佐賀地区漁業集落整備事業の整備区域外の住民が浄化槽を設置する場合は、費用の一部を補助しています。これらにより、今後も水洗化率の向上に努めていきます。

また、毎年、町内の主要河川、海岸2箇所の水質・底質検査を行っています。この結果のBOD平均値の推移もほぼ安定しています。

### 3. 海辺の観光情報

#### (1) 丸山海浜パーク

丸山海浜パークは、町内唯一の海辺の公園で、平成元年に開園しました。透明度の高い海域として知られ、突堤に立つと潮の満ち引きを間近に感じられます。園内は、小規模ながら、特に夏期には海遊びやバーベキュー利用等により和やかな賑わいを見せ、心安らぐ滞在型レクリエーションの場となっています。



「①丸山海浜パーク」

#### (2) 佐合島(さごうじま)

平生町唯一の離島で、佐賀漁港から定期船で約8分。瀬戸内海国立公園に指定されており、美しい海岸線と白い砂浜が魅力です。

世界最小のクジラといわれるスナメリが回遊する海域としても知られています。島内には佐合島八幡宮などの史跡があり、ゆったりとした「島時間」を楽しめます。

また、俳人・水彩画家の久保白船(1884-1941)の生誕地でもあり、文化的な背景も感じられる場所です。



「②佐合島」

#### (3) ひらおボートパーク

田布施町と平生町を結ぶ「南周防大橋(全長575m)」のたもとに位置し、小型船舶係留施設や公園が整備されています。橋をウォーキングした後、潮風を感じながらボートが揺れる海を眺めてひと休みするのに最適な場所です。



「③ひらおボートパーク」

## 山口デスティネーションキャンペーンの開催について

山口県観光スポーツ文化部  
観光プロモーション推進室

### 1. キャンペーンの概要

本県では、本年10月から12月まで、JRグループと共同で実施する国内最大級の大型観光キャンペーン「山口デスティネーションキャンペーン（通称：山口DC）」を開催します。

観光客の皆様が、心身ともに幸福感に満たされる「万福の旅」を実感できるよう、山口DCならではの特別な企画や観光素材を多数用意するとともに、DC期間限定のキャンペーンやイベントを全県規模で展開します。

#### ▶キャンペーン期間

令和8年10月1日（木）  
～同年12月31日（木）まで

#### ▶展開エリア

山口県全域

#### ▶キャッチコピー

万福の旅 おいでませ ふくの国、山口

#### ▶キャンペーンロゴ



#### <コンセプト>

DCという特別な機会にふさわしい、金色の「ふくだるま」が皆様を「万福の旅」へご案内します。

背景に縁起の良い扇形をあしらい、英語で示した「A JOURNEY TO HAPPINESS」に、幸福感に満ちたプレミアムな旅を満喫いただきたいという想いを込めています。

### 2. 山口ならではの特別な企画・観光素材

本県には、感動的な「絶景」、素敵な「体験」、美味しい「グルメ」があふれています。

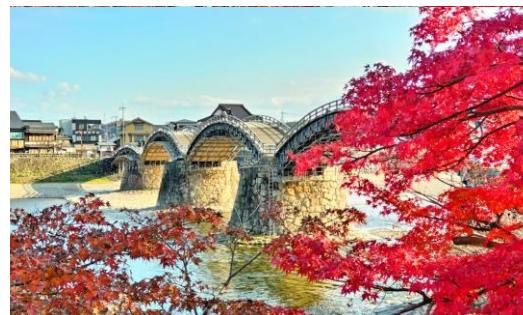
山口DCでは、「世界」をキーワードとした唯一無二の体験をはじめ、歴史や文化、温泉や芸術など、多彩なジャンルの地域資源を磨き上げ、県内全域で200超もの、山口ならではの特別な企画や観光素材を準備し、皆様をおもてなしします。

#### <世界が注目した国宝瑠璃光寺五重塔>



日本三名塔の一つにも数えられ、四季折々の表情を楽しめます。キャンドルライトイベントや、まち歩きガイドツアーなども実施します。

#### <世界唯一の美しさを誇る木造橋・錦帯橋>



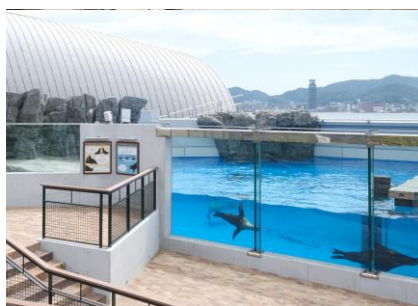
錦帯橋周辺では、着物での散策や、オリジナルの印鑑づくり体験ができるほか、国宝の刀剣の限定公開など様々なコンテンツが楽しめます。

＜ユネスコ世界ジオパーク認定を目指す  
秋吉台・秋芳洞＞



秋吉台ではトレッキングやサイクリング、秋芳洞ではケイビングなど、多種多彩なアウトドアアクティビティを楽しめます。

この他、昨年8月にリニューアルオープンした市立しものせき水族館・海響館や、萩市の世界遺産「明治日本の産業革命遺産」、山口のご当地グルメなど、県内各地で特別感のある企画や観光素材を楽しめます。



市立しものせき水族館・海響館



世界遺産「明治日本の産業革命遺産」



ふぐ刺し



長州海鮮うにしゃぶ



瓦そば

3. DC期間限定のキャンペーン・イベント  
山口DCのスタートに合わせて、全県規模の周遊キャンペーンやイベントを実施します。本県の豊かな自然、歴史や文化、グルメなどを一層楽しめる、DCのための特別企画を展開します。

昨年開催した山口DCのプレキャンペーン（期間：令和7年10月～12月）では、古地図や地酒など本県が誇る観光資源を活かした周遊キャンペーンやイベントを実施しました。

山口DCの本番となる今年は、プレキャンペーンでの利用実績や観光客の皆様のご意見等を踏まえながらブラッシュアップを図り、万全の状態の皆様をお迎えします。



古地図を片手に地元ガイドの案内で街を歩くガイドツアーの様子

# 山口県における漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業の活動について

山口県農林水産部水産振興課

## 1. 漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業の概要

漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（県事業名：沿岸域環境改善支援事業）は、環境・生態系の維持・回復や安心できる海域の確保など、漁業者等が行う水産業・漁村の多面的な機能の発揮に資する地域の活動を支援する国の事業です。

本事業は、大きく分けて二つの活動から構成されています。

一つ目は、環境・生態系の維持・回復に関する活動です。具体的には、食害生物であるウニの駆除や、藻場・干潟の保全などが挙げられます。

二つ目は、海域の安全確保に関する活動です。国境や水域の監視など、海の安全を守るための取組が対象となっています。

藻場や干潟の保全を支援する本事業は、環境保全の観点からも重要な役割を担っており、本県においても各地域で取組が進められています。



水産業・漁村の多面的機能

## 2. 山口県における漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業について

現在、山口県では、県内各地で23の活動組織が漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業に取り組んでいます。

このうち、21組織が藻場や干潟の保全などの環境・生態系の維持・回復に関する活動を行っており、2組織が海域の監視活動を中心とした海の安全確保に関する活動を実施しています。

活動組織の活動費については、国の支援に加え、県および市町による補助も行われています。

このため、県では市町や地域協議会と連携し、活動組織が適切に事務手続きを行えるよう指導・助言を行っています。

また、事業において効果が実証された取組については、他地区への波及を図るとともに、水産研究センターによる技術支援を行い、効率的かつ効果的な取組が実施されるよう支援しています。

本稿では、山口県内で活動する23の活動組織のうち、岩国市の「通津アサリグループ」の取組について紹介します。

## 3. 山口県岩国市通津地区について

通津地区は、山口県東部に位置する岩国市にあり、広島湾の西側に面した地域です。

岩国市は、山口市に次いで市域面積が広く、また城下町として古くから栄えてきました。

日本三大奇橋の一つである錦帯橋をはじめ、数多くの歴史・文化遺産を有しており、年間300万人以上の観光客が訪れる観光都市としても知られています。

通津地区は、岩国市の市街地から南へ約10kmの場所に位置しており、地区の中央には通津川が流れ、その河口部の前浜には干潟が形成されています。



〈 位置・地勢 〉

#### 4. 通津地区の干潟の現状

かつて通津地区の干潟には数多くのアサリが生息しており、漁業資源として利用されていたほか、地域住民による潮干狩りの場としても親しまれてきました。

しかし、約30年前から、ナルトビエイやクロダイによる食害、プランクトンなどの栄養塩類の減少といった、複数の要因が重なり、アサリ資源は急激に減少し、その後も漁獲量の低迷が続いています。

さらに近年では、新たな課題として、豪雨の頻発化に伴う河川増水の影響により、河口付近の前浜干潟において、土砂の堆積などによる地形変化が生じやすくなっています。

干潟の地形変動は、潮流の変化によるアサリ稚貝の供給量の低下や、資源保護のために設置した被覆網への砂の堆積を招くなど、アサリ資源の回復に悪影響を及ぼしています。

干潟の生産力回復は、地区の漁業振興のみならず、かつて潮干狩りを楽しんでいた地域住民にとっても重要な課題であり、現在、その解決に向けた対策が求められています。

#### 5. 通津アサリグループ

通津アサリグループは、平成25年に、アサリ資源およびそれを育む干潟の回復を図ることを目的として、漁業者や漁協が中心となり設立されました。

その後、地域住民も活動に加わり、現在は漁業者16名、地域住民6名の計22名で活動を行っており、県および市の支援を受けながら、組織の運営と取組を進めています。

本グループの活動目標は、地域住民が再び潮干狩りを楽しむことのできる干潟を再生することであり、そのためのアサリ資源の回復は重要かつ喫緊の課題と位置付けています。

この目標の達成に向け、以下の方針に基づき取組を行っています。

- (1) 干潟の地形を安定的に維持するため、整地等を実施し、アサリが生息しやすい干潟環境の安定化を図る。
- (2) 稚貝を確保するために網袋を設置する。
- (3) 網袋や被覆網内に着底した稚貝を食害から守り、母貝として育成する。

これらの取組を通じて、干潟環境の保全とアサリ資源の安定化を図っています。



稚貝確保のための網袋の設置



自動洗浄装置による網袋内の砂出し作業



底質改善のための被覆網設置

また、耕うん作業などの保全活動には、保育園児が参加する機会も設けており、干潟の環境や保全活動の大切さを身近に学んでもらう良い機会となっています。

このような取組は、地域における環境保全意識の醸成にもつながっています。



保育園児が参加した耕うん活動

## 6. 活動の効果

干潟の保全活動に継続的に取り組んだ結果、平成 30 年度にはアサリの生息密度が順調に増加し、600 個/m<sup>2</sup>まで回復しました。

その後も取組を継続することで、現在は概ね 450 個/m<sup>2</sup>程度の比較的高い水準の生息密度を維持しています。

一方、令和元年度には一時的に生息密度が減少しましたが、これは大雨による土砂流入や、ツメタガイによる食害の影響によるものでした。

しかし、網袋の設置等による稚貝の確保は順調に行えていることから、今後も継続的な活動により資源の回復を図っていく予定です。

## 生物多様性の保全に向けた山口県自然保護課の取組

山口県環境生活部自然保護課

### 1. やまぐち生物多様性センターについて

生物多様性保全に関する連携・協力の斡旋、必要な情報の提供や助言などを行うことを目的として、令和6年3月15日に自然保護課内に「やまぐち生物多様性センター」を設置しました。

業務内容は、生物多様性に関する情報の収集、提供、地域や民間に対する連携の斡旋や生物多様性の保全を推進するために必要と認められる業務です。

具体的には、企業や団体等の民間の生物多様性保全活動を支援する機関がなく、生物多様性に関心はあるものの、何をどう取り組めばよいか分からない企業等もあると思われまので、セミナー等を通じた国・県・企業や団体の取組の紹介を実施しています。

また、民間による生物多様性保全の課題は、高齢化や地域の人口減少等による継続的な管理体制の構築、活動に参加する人材の確保であり、生物多様性応援企業・団体の登録、マッチングを通じた参加型の保全活動の提供、自然共生サイト（候補地）での支援員による保全、専門家の派遣など、センター事業を通じて民間の生物多様性保全の取組を促進する業務を行っております。

### 2. 「やまぐち生物多様性応援宣言企業・団体登録」「やまぐち生物多様性パートナー企業・団体認定」について

この制度の対象者は、県内で事業活動を行っている企業（個人事業者を含む）や県内で活動を行っている各種団体（NPO法人、ボランティア団体等）です。

制度の内容は生物多様性保全の取組に賛同する企業・団体が宣言をすることで登録が行わ

れる「やまぐち生物多様性応援宣言企業・団体登録」と宣言企業・団体のうち、「①自然共生サイトの認定を受けていること」、「②継続して生物多様性の保全活動に取り組んでいること」、「③やまぐち生物多様性センターの斡旋する生物多様性の保全活動へ協力していること」のいずれかに該当する企業・団体を認定する「やまぐち生物多様性パートナー企業・団体認定」があります。

登録・認定のメリットとして「①応援宣言企業・団体をやまぐち生物多様性センターのホームページでPR」、「②企業・団体からの支援要望に対して、やまぐち生物多様性センターが支援可能な企業・団体を斡旋」、「③「やまぐち生物多様性ロゴマーク」を企業・団体のPRに使用可能」、「④パートナー企業・団体の取組をやまぐち生物多様性センターのホームページでPRするとともに、県の広報媒体で周知すること」があります。

### 【やまぐち生物多様性ロゴマーク】



### やまぐち生物多様性

「やまぐち生物多様性ロゴマーク」のコンセプトは命のつながりをテーマとし、山口県にいきづく生物が自由に円を描くロゴマークです。

これからも、これらの生物を含めた豊かな自然が守られるようお願いを込めています。

3. 桜郷銅山跡農村公園自然共生サイトについて  
環境省では、令和5年度から「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定してきました。

令和7年4月からは、自然共生サイトを法制化した新法である地域生物多様性増進法が施行されています。

そのため、令和5、6年度に認定した自然共生サイトに加えて、令和7年度からは、地域生物多様性増進法に基づき認定された実施計画の実施区域も「自然共生サイト」となります。

今回は令和6年の後期に山口県が山口市と共同申請を行い認定された「桜郷銅山跡農村公園自然共生サイト」について説明します。

山口市が農村公園として整備保存している公園で、鉱山跡地特有の石灰岩地質に広がる植生など、特色ある自然が残存しています。

蔵目喜（ぞうめき）地区は、古くから防長屈指の銅山として栄えており、桜郷銅山は其中でも中心的な山の一つでありました。伝承によれば、ここで採掘・精錬された銅は、長門（長府）や周防（山口鑄銭司）にあった鑄銭所（銭をつくる役所）の原料や、東大寺大仏の建立にも使用されたと伝えられています。桜郷銅山は約1,200年間にわたり、栄枯盛衰を繰り返しましたが、昭和39年宇部興産株式会社（現 UBE株式会社）の操業を最後に銅山の歴史を閉じました。現在では農村公園として整備保存され、山上にある露天掘り跡や宇部興産株式会社創業時の巨大な選鉱施設などが、当時の反映した銅山の歴史を伝えています。

アピールポイントは、地域の住民の憩いの公園として、想いのある地元の方々により保全されており、わずかな面積ながらも多様な動植物が確認されているため、環境の整備を目的とし

た保全活動を行っていることです。

また、本サイトには遊歩道が整備され、地域の人々の憩いの場となりエコツアーなども実施されています。区域内における主な植生は、広葉樹を中心とした疎林に、林床や林縁にはシダ植物やつる植物、草本などが生育する環境です。特にシダ植物のヘビノネゴザやアブラナ科草本のハクサンハタザオは、鉱山跡地などの重金属が蓄積し、他の植物の生育が困難な場所にも生育する植物であり、多くのエリアで群生しているのが確認できます。申請区域全体では植物291種、哺乳類2種、鳥類11種、昆虫類等が確認されています。

現場は以下の写真のようになっており水選鉱跡は「山口のマチュピチュ」と呼ばれております。休憩する東屋もありますので、ピクニック気分では是非皆さんも、一度お出かけください。

#### 【現地写真（水選鉱跡）】



4. 「自然共生サイト中国地方ミーティング2025～みんなの取組を進めて、地域の暮らしとなりわいを確かなものに～」について

自然がもたらす恵みを持続可能な形で享受できる「自然共生社会」。その実現へ向けた新しい国際目標「30by30」や身近な自然資本を活用した地域づくりに寄与する「自然共生サイト」と里海づくりの取組を知っていただき、その輪を広げていくため

の情報交換会を11月25日（火）に山口市の山ログランドホテルで行いました。

開催の目的は、生物多様性のための30by30アライアンス、自然共生サイトへの相互参照・参加を図るとともに、環境省の地域づくりに関する支援事業（里海づくりの推進等）に採択された団体との情報交換も活用して、身近な自然資本を活用した地域づくりに関するパートナーシップの促進及び、地域循環共生圏（自立・分散型の持続可能な社会）の構築を推進することです。

また、「自然共生サイトの認定を受けた団体」「サイト認定を目指す団体」「サイトを支援したい事業者」「サイト等に関する自治体」等が、「取組」「成果」「課題」「ニーズ」等に関する情報を交換することで、相互理解を深めるとともに、必要な関係構築を試みました。

結果として、上記の団体等が、自然共生サイト等に関する動向の最新情報（認定状況や法施行、今後の方向性等）を得ることで、今後の団体間の連携の在り方や自らの活動の方向性等について理解を深め、山口県は、この企画を通して、今後の具体的な支援策の検討等に向けた素材を収集することができた実りあるミーティングになりました。

当日はセッションで「中国地方の自然共生サイト認定団体等の取組紹介」（令和6年度後期・令和7年度第1期の認定団体）と「里海づくり等に関する団体の取組事例」（令和6・7年度令和の里海づくり基盤構築支援事業および令和7年度良好な環境を活用した観光モデル事業の採択団体）において山口県からは「桜郷銅山跡農村公園自然共生サイト」（申請者：山口県・山口市）、「日産化学（株）小野田工場ビオトープ」（申請者：日産化学株式会社小野田工場）、「防府市藻場造成による豊かな里海づくり協議会」が発表を行いました。最後に、「自然共生サイトの登録・活用に向けたワーク

ショップ」を行い、意見交換を行いました。

今回のミーティングを通じて自然共生サイト・里海づくりの担い手が繋がりが持つことができました。山口県は今後も情報共有などを通じて更なる連携体制の構築を図ります。

## 【防府市藻場造成による豊かな里海づくり協議会による発表】



【ワークショップ風景】



## 5. 終わりに

山口県としましては、引き続き、自然共生サイトの認定拡大を始めとした生物多様性の保全に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

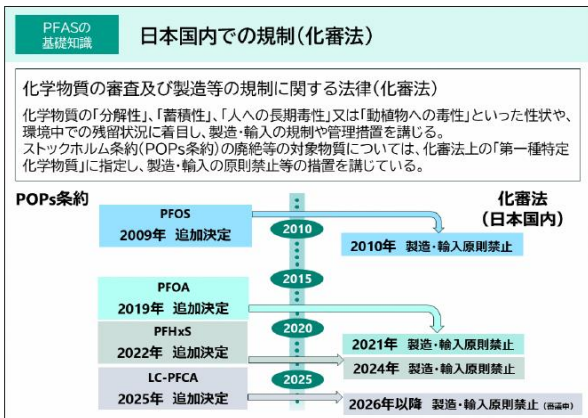
山口県の豊かな自然の保全活動の推進に御理解をいただきますとともに、引き続き、御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

# 令和7年度水環境中のPFOS・PFOA存在状況調査の結果について

山口県環境生活部環境政策課

## 1. はじめに

PFAS（ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物の総称）の一種であるPFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）・PFOA（ペルフルオロオクタン酸）については有害性が指摘されており、人の健康を守るための基準値等に関する科学的議論が行われてきた結果、国際条約において廃絶対象とされ、国内においても製造・輸入等が原則禁止されています。



【出典：PFASに関するハンドブック（環境省）】

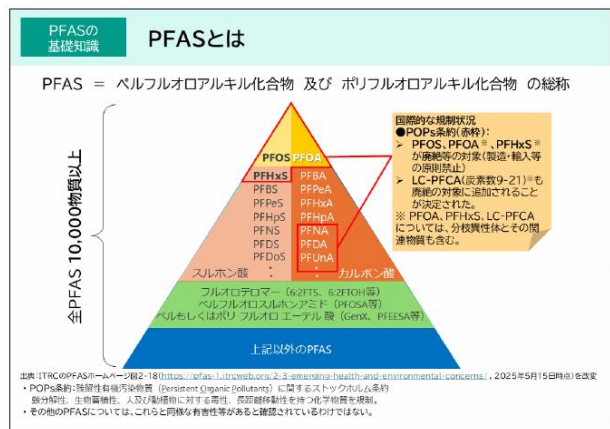
PFOS・PFOAが国内で新たに製造等されることは原則ありませんが、主に過去様々な形で環境中に排出されたものが国内の公共用水域や地下水等から検出される事例が確認されています。

県としては、県民の関心や不安が高まっているものと認識しており、今年度、人の健康に影響を及ぼす可能性があるPFOS・PFOAについて、排出源となりうる施設周辺の河川、海域及び地下水中の存在状況を県下全域で把握するための調査を実施しましたので、その結果を本稿で説明します。

## 2. PFASとは

PFASとは、主に炭素とフッ素からなる化学物質で、1万種類以上の物質があるとされています。

PFASは、いずれも強く安定した炭素-フッ素結合を持ち、加水分解、光分解、微生物分解及び代謝に対して耐性があります。中には撥水・廃油性、熱・化学的安定等の物性を示すものがあり、溶剤、界面活性剤、繊維・革・紙・プラスチック等の表面処理剤、イオン交換膜、潤滑剤、泡消火薬剤、半導体原料、フッ素ポリマー加工助剤等、幅広い用途で使用されています。



【出典：PFASに関するハンドブック（環境省）】

## 3. 調査の概要について

今年度の調査については、表1のとおり消防署や下水処理場など、国が示したPFOS等の排出源となりうる施設の下流部の河川や海域の環境基準点、その施設周辺の飲用井戸を合計60地点選定し、令和7年6月下旬から8月上旬までの間に実施しました。

表1 調査地点

水 域	主な施設	地点数
河 川	消防署、下水処理場	15
海 域	消防署、空港・防衛施設、下水処理場、石油コンビナート	20
地下水	消防署	25

4. 調査結果について

調査結果については、表2のとおり河川、海域及び地下水の全調査地点において、指針値（50ng/L）以下です。

なお、詳細は、表3、図1及び図2に示しています。

表2 令和7年度調査結果

水 域	地点数	測定結果 (ng/L) (指針値：50ng/L以下)
河 川	15	0.4 ~ 6.0
海 域	20	0.3 ~ 1.1
地下水	25	ND (不検出) ~ 35

5. おわりに

法改正や新たな調査結果など、PFASに関する最新の状況については、環境省のウェブページに掲載されていますので御確認ください。

【参考】

有機フッ素化合物 (PFAS) について (環境省 Web ページ)  
<https://www.env.go.jp/water/pfas.html>

表3 地下水の測定結果一覧

No.	市町名	測定結果(ng/L)
1	岩国市	10
2		0.8
3	和木町	2.4
4	柳井市	ND
5	周防大島町	1.0
6	上関町	3.6
7	田布施町	6.5
8	平生町	1.2
9	下松市	4.3
10	光市	1.8
11	周南市	1.4
12		1.1
13	防府市	3.0
14		ND
15	山口市	18
16		7.2
17	宇部市	1.2
18		12
19	山陽小野田市	1.4
20	美祢市	35
21	長門市	5.3
22	萩市	22
23	阿武町	0.3
24	下関市	18
25		2.5

※地下水の個別の測定地点は、個人所有の井戸等を対象にしており非公開としています。



## 令和7年度 山口県瀬戸内海環境保全協会会長表彰受賞者

名 称	かみのせきちょうかんこうきょうかい 上 関 町 観 光 協 会
団体の所在地	熊毛郡上関町大字室津 904-15
代表者氏名	会長 <small>はま だ のりあき</small> 濱田 憲昭
主 な 功 績	<p>平成5年より夏には海水浴客が多く訪れる中ノ浦海浜公園の清掃活動を毎年7月に行っている。</p> <p>観光協会会員を中心に、取組に賛同する地元企業の従業員により長年行われてきた。</p> <p>令和3年度からは上関小学校・中学校と連携し、児童生徒も参加することになり、学童期からの環境保全の啓発を行うなど、瀬戸内海の環境保全に貢献している。</p>
特記事項等 (表彰歴等)	特になし

## 令和7年度 山口県環境保全活動功労者等知事表彰受賞者

### 【環境保全活動功労者】2名

氏名（住所・年齢）	主な功績
おかだ しょうえい 岡田 勝栄 （山口市・81歳）	大殿ホテルを守る会の事務局長として、ゲンジボタルの保全活動に取り組むとともに、地元住民や関係団体と協力し、一の坂川周辺の環境整備活動や地元小学校における環境教育にも貢献。
しみず まもる 清水 守 （下松市・79歳）	山口県狩猟会理事・副会長として、長年にわたり安全狩猟を推進するとともに、有害鳥獣捕獲対策や野生鳥獣保護管理対策に積極的に取り組むなど、狩猟の適正化や自然環境の保全に貢献。

### 【リサイクル、省資源・省エネルギー運動推進優良団体】2団体

団体名（住所）	主な功績
にしぞのじちかい 西園自治会 （宇部市）	資源の有効利用に努め、再資源物の集団回収を実施し、自治会を中心としたリサイクル運動の推進に貢献。
よしみちくしゃかいふくしきょうぎかい 吉見地区社会福祉協議会 （下関市）	資源化物の再資源化推進事業活動を計画的に実施し、「4つのR」の推進に貢献。

### 【地球温暖化対策優良事業所】2事業所

事業所名（住所）	主な功績
ちょうふうこうさん 長府工産（株） （下関市）	水素を燃料とし、燃焼させてもCO <sub>2</sub> が発生しない「水素ボイラ給湯機」の開発や、一般家庭での水素利用を見据えた実証実験を実施するなど、先導的な取組を実施。
（株）ちょうふせいさくしよ 長府製作所 （下関市）	太陽熱・地中熱といった再生可能エネルギーを利用した製品の製造や、高効率給湯機器・全館空調用ヒートポンプ機器を普及促進するなど、先導的な取組を実施。

### 【環境学習功労者】2名

氏名（住所・年齢）	主な功績
いぐら きよみ 井倉 清水 （周防大島町・74歳）	地球温暖化防止活動推進員として、出前講座や環境イベントを実施し、家庭でできる温暖化対策の啓発に貢献。
よしもと れいき 吉本 礼希 （岩国市・66歳）	環境パートナー及びネイチャーゲームインストラクターとして、ネイチャーゲームをはじめとした自然体験活動を通して、自然環境の大切さについて学習する活動に貢献。

（各表彰区分で個人・団体別50音順に記載、年齢は11/7時点）

令和7年度「環境保全、リサイクル、省資源・省エネルギー」  
 絵画・ポスターコンテスト 受賞者一覧

【小学生の部】

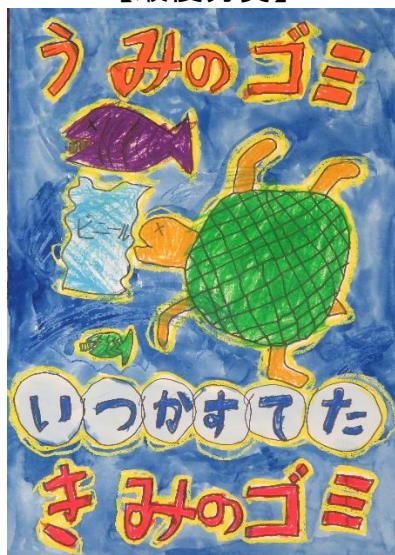
学校名	学年	氏名	賞
宇部市立常盤小学校	第2学年	むらかみ けいた 村上 敬太	最優秀賞
宇部市立藤山小学校	第4学年	なかむら ゆかこ 中村 有香子	優秀賞
山陽小野田市立高泊小学校	第1学年	しばまる しゅう 柴丸 守羽	佳作
宇部市立西宇部小学校	第2学年	うめだ ゆあ 梅田 結愛	佳作
宇部市立藤山小学校	第6学年	かわばた いつき 川畑 一絆	佳作

【中学生の部】

学校名	学年	氏名	賞
岩国市立川下中学校	第2学年	もり ゆい 森 結衣	最優秀賞
山口市立大内中学校	第2学年	はやし こたま 林 小珠	優秀賞
柳井市立柳井中学校	第1学年	すぎやま ひなた 杉山 ひなた	佳作
下松市立下松中学校	第3学年	とくなが きょうか 徳永 杏香	佳作
下松市立下松中学校	第3学年	みよし きい 三吉 希依	佳作

令和7年度「環境保全、リサイクル、省資源・省エネルギー」絵画・ポスターコンテスト  
入賞作品(小学生の部)

【最優秀賞】



村上 敬太 さん  
(宇部市立常盤小学校第2学年)

【優秀賞】



中村 有香子 さん  
(宇部市立藤山小学校第4学年)

【佳作】



柴丸 守羽 さん  
(山陽小野田市立高泊小学校第1学年)

【佳作】



梅田 結愛 さん  
(宇部市立西宇部小学校第2学年)

【佳作】



川畑 一絆 さん  
(宇部市立藤山小学校第6学年)

令和7年度「環境保全、リサイクル、省資源・省エネルギー」絵画・ポスターコンテスト  
入賞作品(中学生の部)

【最優秀賞】



森 結衣 さん  
(岩国市立川下中学校第2学年)

【優秀賞】



林 小珠 さん  
(山口市立大内中学校第2学年)

【佳作】



杉山 ひなた さん  
(柳井市立柳井中学校第1学年)

【佳作】



徳永 杏香 さん  
(下松市立下松中学校第3学年)

【佳作】



三吉 希依さん  
(下松市立下松中学校第3学年)

## 令和7年度環境保全標語入選作品

応募総数 4,368 点

【選者 全国SLAスーパーバイザー 長尾幸子】  
(敬称略)

賞	作品	氏名	所属等
金	そっと拾った その手でつなぐ 海と未来	野村 優子	NGKエレクトロデバイス(株)
銀	落ちてるゴミに気づく感性 拾う習慣 未来へ繋ぐきれいな環境	河谷 隆二	日本ゼオン(株)徳山工場
	受け継ぐ未来 心も自然も 豊かがいい	前田 興修	(株)神戸製鋼所長府製造所
銅	環境保全 どんな活動あるのかな 調べてみよう参加しよう	原 範之	東ソー(株)南陽事業所
	るり色の 瀬戸の海原 次世代へ 保全の船で 今、こぎ出そう	中村 由香里	一般
	家族から地域へ広がる リサイクル 未来へつなぐ 資源の輪	古屋 流永	日本製紙(株)岩国工場
佳作	捨てずに活かす ひと工夫で 資源が輝く	太田 憲志	日本製紙(株)岩国工場
	捨てればゴミ 使えば資源 工夫次第で未来の宝	山口 宗人	日本製紙(株)岩国工場
	リサイクル クルクル回る 再資源	樋野 康成	三井化学(株)岩国大竹工場
	捨てるもの 見方を変えて リサイクル	中嶋 貴彦	山九(株)岩国支店
	今できることをみんなで実践、 一緒に歩もう、持続可能な未来へ。	安部 悟史	中国電力(株)柳井発電所
	打ち水で 気温を下げて 気分を上げる	山崎 貴之	日本製鉄(株)山口製鉄所(光)
	やっちょるか！？ゴミの分別とリサイクル	原 竣平	日本製鉄(株)山口製鉄所(光)
	ゴミひとつ意識ひとつで守る海	菅光 雅史	東洋鋼鈑(株)下松事業所
	守りぬく わが子の笑顔と 瀬戸内の海	兼重 直樹	東洋鋼鈑(株)下松事業所
	ごみひとつ ひらう心が 未来の入り口	森本 刃	(株)日立製作所笠戸事業所

賞	作品	氏名	所属等
佳作	自らが 動いて回る リサイクル	木原 啓輔	出光興産(株)徳山事業所
	捨てないで 流れる先に 命がある	神田 樹	日本ゼオン(株)徳山工場
	全てのゴミは拾えなくても 届くところから手を伸ばそう	國清 雄三	日本ゼオン(株)徳山工場
	ECOひいき 分別節約 コツコツと	安藤 健人	東ソー(株)南陽事業所
	みんなの意識で守られる 風光明媚な瀬戸の海	田原 啓三	東ソー(株)南陽事業所
	無くそう海洋ゴミ 残そう青い海	岩見 伸治	(株)東ソー分析センター
	イメージして あなたの捨てた そのごみを 知らない誰かが 清掃するの	高田 啓佑	周南市
	守ろうよ 清んで輝く 青い海	末藤 克弥	日本製鉄(株)山口製鉄所(周南)
	見続けたい 笑顔が映る 瀬戸内の海	有留 元	日本製鉄(株)山口製鉄所(周南)
	キラキラと浮かぶ輝き ごみのない水平線	長廣 美裕	日本製鉄(株)山口製鉄所(周南)
	エコは 選択じゃない 生き方だ	近藤 一誠	テルモ山口(株)
	未来の海に、ありがとうと言われる今日を	中司 輝一	テルモ山口(株)
	地域を守る 瀬戸内海 環境整備で恩返し	祝部 勝重	UBE(株)宇部ケミカル工場
	ゴミひとつ 拾い感じる がっかり感 たかがされど 大きな一歩	佐藤 美由紀	UBEマシナリー(株)
	変えてこう 捨てるその手を 拾う手に	上田 泰隆	UBE三菱セメント(株)山口工場
	ひと手間で 資源かゴミかの分かれ道 意識一つで変わる未来	伊藤 直毅	UBE三菱セメント(株)山口工場
	捨てないで 海の命と未来の笑顔	西岡 慎二	西部石油(株)山陽小野田事業所
	ゴミひとつ出さぬ優しさ 海のため	新城 康秀	太平洋マテリアル(株)小野田工場
	ひとりひとりのマナーで守る 光り輝く 瀬戸内海	折口 仁	小野田化学工業(株)小野田工場
	続けよう きれいを続ける習慣を 地球のためにこつこつと	荒川 大輔	中国電力(株)新小野田発電所

賞	作品	氏名	所属等
佳作	車より 近場は徒歩で 自然の変化を楽しもう	御手洗 尚久	中電環境テクノス(株)新小野田事業所
	地球の病名 異常気象 治療はみんなのエコ活動	秋山 裕司	NGKエレクトロデバイス(株)
	ひとりの気遣いが 環境を守る みちしるべ	島 龍夢	NGKエレクトロデバイス(株)
	拾ってゴミゼロ 歩いて排気ゼロ みんなで目指すネットゼロ	福本 裕太	UBE三菱セメント(株)伊佐鉱山
	「誰かがやる」では遅すぎる 「自分がやる」が地球を救う	三好 暁之	(株)神戸製鋼所長府製造所
	ポイ捨て注意 自然環境 破壊のトビラ	森 くるみ	(株)神戸製鋼所長府製造所
	私達の青い海 100年先まで 守る一步を	神田 宏	(株)神戸製鋼所長府製造所
	小さな一歩が大きな希望！ みんなで守ろう 青い地球	中村 忠宏	(株)神戸製鋼所長府製造所
	小さな意識で大きく変わる 自然も喜ぶエコ活動	池田 学	(株)神戸製鋼所長府製造所
海は鏡 私たちの暮らしを 映している	善久 典輝	(株)神戸製鋼所長府製造所	



海洋プラスチックリボンベンチ

## 令和7年度環境保全川柳入選句

応募総数 3,657 点

【選者 山口県川柳協会 会長 渋谷栄子】  
(敬称略)

賞	作品	氏名	所属等
金	SDGs 心に刻み 未来へGo	升谷 大樹	山九(株)岩国支店
銀	エコ意識 高めて守る 青い海	長 祐介	UBE三菱セメント(株)山口工場
	エコの芽を 皆で育み 脱炭素	平方 佑輝	(株)神戸製鋼所長府製造所
銅	脱炭素 未来へつなぐ 温断化	万谷 博史	中国電力(株)柳井発電所
	澄んだ水 飲めるしあわせ 守りたい	宮地 哲治	東洋鋼鋳(株)下松事業所
	水底(みなぞこ)の 暮らしが見せる 清い河	藤本 美智子	協和発酵バイオ(株)山口事業所
佳作	おいしいね ふるさとの水 未来まで	瀧本 広隆	日本製紙(株)岩国工場
	受け継ごう 心をうつす 澄んだ水	高田 愛実	日本製紙岩国サポート(株)
	川自慢 名酒揃いの 背比べ	湊 康文	日本製紙岩国サポート(株)
	澄んだ水 守る取り組み 見える価値	岩崎 純平	東洋鋼鋳(株)下松事業所
	清い川 未来へ残す たからもの	仲子 光一	東洋鋼鋳(株)下松事業所
	ゴミ減らし、知識増やして、澄んだ水	佐藤 太亮	鋼鋳工業(株)
	清い川 集めて青い 瀬戸の海	田村 康典	鋼鋳工業(株)
	次世代に 笑顔で自慢 瀬戸の海	原田 明夫	鋼鋳工業(株)
	澄んだ水 日々の努力の 積み重ね	山田 浩二	日本ゼオン(株)徳山工場
瀬戸想い リセットしよう 無関心	山崎 心奈美	東ソー(株)南陽事業所	

賞	作品	氏名	所属等
佳作	瀬戸内の 輝く明日へ 知恵を出す	増田 隆洋	東ソー(株)南陽事業所
	拾う手に 託す瀬戸内 碧き夢	赤間 翔太	東ソー(株)南陽事業所
	瀬戸内の 豊かな資源 後世へ	河村 高志	東ソー・ファインケム(株)
	ごみゼロへ 瀬戸内ブルー 光り出す	久芳 孝治	テルモ山口(株)
	ゴミ削減 地球を守る 第一歩	飯田 啓太郎	テルモ山口(株)
	残すべき 日本の誇り 清い川	児玉 信二郎	UBE三菱セメント(株)山口工場
	澄んだ水 未来の子らに 手渡そう	岡本 拓真	小野田化学工場(株)小野田工場
	拾う手が 瀬戸の未来を 照らしてる	原田 剛史	中国電力(株)新小野田発電所
	ポイ捨てが 海の命を おびやかす	岡田 祥乃	(株)神戸製鋼所長府製造所
	海の声 聞ける心を 育てたい	歌川 桂大	(株)神戸製鋼所長府製造所



プラスチックリボン大作戦 in 周防大島町

# 環境学習教材

## 利用案内

問い合わせ・申し込み先

### 環境学習推進センター

教材：パネル、図書、DVD、紙芝居、雑誌（定期刊行誌）、その他

〒754-0893 山口市秋穂二島1062 Y M f g 維新セミナーパーク内  
公益財団法人 山口県ひとづくり財団

TEL 083-987-1110

FAX 083-987-1720

E-mail kangaku@hito21.jp

URL <https://yamaguchi-learning.com>

<教材の申し込みにあたって>

貸し出している場合がありますので、事前に電話やメールでご確認ください。

みずべ山口 No. 43

令和8年3月

---

## 山口県瀬戸内海環境保全協会

〒753-8501 山口市滝町1番1号 山口県環境生活部環境政策課内  
TEL 083(933)3038 FAX 083(933)3049

---